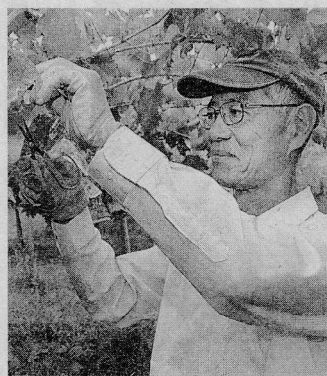


大渡 小渡

JR中央本線の電車が笹子トンネルを抜け、勝沼ぶどう郷駅に着くと、眼下には一面のブドウ畑が広がります。その先には南アルプスの山々が見えま

す。いつも心がときめく瞬間です。私は、山梨県笛吹市で仲間と共にブドウの栽培と販売、ワイン造りをしています。埼玉県所沢市から通い、農業を共にする仲間も首都圏から来ています。借りている約80㍎の畑では、45㍎で生食用、35㍎でワイン用の品種を栽培しています。私は生食用ブドウ主体



で、約60品種を植えています。出荷できるブドウは30品種程度になりました。

畑は、中央自動車道のすぐ南側にあり、勝沼町に隣接しています。私は60歳まで東京都の建設会社に勤めるサラリーマンでしたが、たまたま訪れた笛吹市で、その素晴らしい田園風景と魅力的な果物であるブドウ、そして都会から訪れたよそ者である私を温かく迎

和 南林

仲間と共に通いで農業

え入れて、励ましてくれる地域の人たちと出会い、9年がたちました。

山梨県に通い始めて、ブドウにはいろいろな種類があることを知りました。普段、スーパーなどで見かけるブドウは種類が限られ、房単位で買うには値段も高額です。そこで、房を切り分けていろいろな品種のブドウをミックスして売る方法を考えました。試行錯誤を経て、現在のような粒に切り離して数種類をミックスし、透明袋に入れる方法にたどり着きました。

現在は、160㍎袋を6〜30パックに箱詰めして宅配で送る販売方式が主ですが、160㍎パックを250円、

80㍎パックを100円で、1袋ずつ売るのが究極の目標です。これなら子供のおやつや高齢者でも手軽にブドウを楽しむことができます。農家もきれいな房をつくる手間を省くことができ、収益性も高いと考えます。

周りの畑で働く農家は、高齢の方が多いのですが、みなさんとても元気で、はつらつと仕事を楽しんでいます。そのような方々が築いてきた畑の景観は見事なものです。しかし、働き手がいなくなり、放棄された畑もあちこちに見当たります。東京都に近いという地の利を生かして、多くの人に訪れてもらい、果樹景観の維持に一役買っても

らうことも考えたいと思っています。私が山梨県でブドウの栽培を始めたという話を聞きつけて、友人がポツポツと訪れるようになりました。ワイン造りを体験したい人、いろいろなブドウを食べてみたい人、草刈りでもいいから畑で汗を流して一杯やりたい人、粒売りの考えに共感して一緒に考えてくれる人など、人それぞれですが、来る人が少しずつ増えているのは、この地域が魅力にあふれている証拠だと思います。

粒売り方式と首都圏から人を呼ぶことで、この地域ならではの持続可能な果樹農業の一つの形が示せればいいなと考えています。
(山梨県笛吹市一宮町石、笛吹農園、ブドウ80㍎)